

# 筑波大学新聞

## 第315号

編集責任 筑波大学新聞  
編集代表 福原直樹

TEL: 029(853)2040-6699

E-mail: shinbun@un.tsukuba.ac.jp  
月刊

発行所 筑波大学  
茨城県つくば市  
天王台1-1-1

### 紙面から

- 山下吏良助教 異色の経歴生かしのケア
- 吹奏楽団 壮大な世界観を音で演出
- 弓道 今林4射皆中決める
- 男子バスケットボール 新人戦優勝など躍進
- 社会貢献プロジェクト 野菜の育て方を指導
- 学生宿舎新設 日本人と留学生同居

11 10 9 8 3 2

5

第40回 熱気にあふれた2日間

特集 6,7

起業特集 つくばをシリコンバレーに

## 「パワープレート」使用で

### 「パワープレート」使用で

正田純一教授(医学医療系)らのグループの研究で、乗るだけでも運動効果を得られるトレーニング機器「パワープレート」を使うと、「脂肪肝」の病状が改善することが分かった。脂肪肝の患者は日本で約2000万人いるが、この方法を使えば、運動の苦手な人や足腰の弱い高齢者でも週2回の使用で脂肪肝を予防・治療できることが期待されている。(井口彩二社会学類2年、写真も)

### 正田教授らの研究グループ

## 乗るだけで「脂肪肝」改善



正田純一 教授

### 週2回の使用でも効果

「パワープレート」に注目し、脂肪肝の患者約30人に使用させた。すると、糖質の代謝に重要な役割を果たすホルモン「インスリン」の働きがほとんどの患者で活発化。その結果、3カ月間で患者らの肝臓や骨格筋は食事療法と運動療法を組

の余分な脂肪が大きく減少し、脂肪肝が改善する効果が見られた。

通常、体内の脂肪を燃焼させるためには、ダンベルを持ち上げるなど酸素を消費しないで筋力を使う「無酸素運動」ではなく、長時間のジョギングなどの「有酸素運動」が有効とされている。パワープレートは体を高速に振動させる無酸素運動だが、研究の結果、脂肪肝の改善に十分な効果があることが分かった。



パワープレートを使う様子

### 筑波大学クレジットカード事業

## 来年度から導入へ 利用額の一部を大学に寄付

筑波大学がクレジットカード会社と提携し、来年度から在学生や卒業生、教職員を対象としたクレジットカード事業を開始することが分かった。クレジットカードの仮名称は「筑波大学校友会カード(校友会カード)」。大学内や大学周辺の店で校友会カードを利用する。この事業は、来年度から導入される。学生カードは通常のクレジットカードとほぼ同じ機能がある。だが、トラブルを防ぐためにキャッシング機能を付加せず、利用限度額を原則10万円(保護者の承諾があれば30万円まで)とし、未成年者の入会には保護者の承諾が必要。一般カードは入会費・年会費がかかるのに対し、学生カードは無料という。利用額の一部は筑波大学基金に寄付され、筑波大独自の奨学金制度「つくばスカシップ」や、学園祭・学生寮の運営費用に充てられる。卒業生は間接的に後輩の大学生活を援助することができる。現在、提携するクレジットカード会社は、7月下旬には決定する予定。その後、来年度からの導入に向け、利用特典の企画や名称・デザインは早稲田大学、慶應義塾大学、明治大学など、全国で先行している。古山室長は「クレジットカード導入が成功するかどうかは加入者数にかかっている。学生や関係者への広報を積極的に行うが、より多くの人にカードを作ってもらいたい」と話した。

## 街灯協議会 8月にも発足

### 筑波大生の協力も

つくば市で街灯がなぐらひ危険な場所が多い問題の解決に向け、同市が設立を表明していた「明る(ま)ち(ま)の協議会(仮称)」が8月にも正式発足することが分かった。同市によると協議会運営には、路上わいせつなどの被害が多い筑波大学生に協力を求める可能性もあるという。同市は発足に向け、街灯がない危険な場所の夜間調査や、専門家からの意見聴取なども進めているという。発足後の成果が期待される。(平嶋健人二社会学類3年)

同協議会には、筑波大や一各研究機関などが参加を予定。入り組むため、街灯・防犯灯の建設が進まない問題の解決を目指す。1月に市原健一(つくば)市長が本紙の質問状に対し、設立を表明していた。



つくばに街灯を

同市道路課への取材によると3月下旬、設立に向けた第1回の検討会が開かれ、茨城県や市内の研究機関・大学の職員ら30人が参加。市の担当課や警察署、多く

の研究機関が所属する筑波研究学園都市交流協議会と協力して、まず(街灯問題のほかに)協議会の運営方法や活動内容の決定▽協議会のメンバーの選定……など

また筑波大生の協議会への参加について、同課は「協議会の運営方法が決まっていらないので、明言できない」としながらも、協議会の運営方針次第では「筑波大生に協力を求めること」も検討したいとしている。

【つくば市の街灯問題】つくば市で街灯がなぐらひ危険な場所が多数存在する問題。つくば市では現在、約2万基の街灯があるが、県道沿いや研究機関周辺では暗い場所が多く、昨

年は大学周辺で夜、暗い道で路上わいせつ事件が1昨年の2倍に増加。つくば中央署では一連の事件が重大犯罪に結びつく可能性が高いとして学生に注意を呼びかけていた。



7月4-6日の3日間で開催された「つくばクラフトピアフェスト2014」。来場客はビールを片手に仲間と語り、筑波大学アイドル研究会のパフォーマンスに大いに盛り上がった。(齋藤優斗=社会学類1年、写真・関根岳=社会学類3年)

「ゴジラ」が注目されている。7月にはハリウッド映画「GODZILLA」が公開されるほか、生誕60周年を記念した展覧会が開かれるなど、まさにブームと言っている現象だ。初登場した1954年の映画では、水爆実験で安住の地を追われ東京に襲来。そこでは放射能を帯びた熱線を吐きながら都市を破壊し、人間社会への怒りをぶつけた。「GODZILLA」でも水爆が登場する。ギャレス・エドワーズ監督は「54年のゴジラとつながるようにしたかった」と語っているが、劇中で水爆実験や放射能汚染が現代風に描かれる。ゴジラ映画で、繰り返す「水爆」が描かれる背景には、54年に起こった第五福竜丸事件がある。西太平洋ヒキシロ礁で実施された水爆実験に日本の漁船が巻き込まれ、船員23人全員が被ばくした事件だ。ゴジラの誕生には、当時の反水爆運動が反映されている。社会学類・好井裕明は著作の中で「ゴジラには反水爆イメージが息づいている」と指摘する。54年の映画ラストシーン、ゴジラは新型兵器で殺されてしまう。映画は環境汚染を繰り返す人間の身勝手さを強烈に批判すると同時に、原水爆の恐怖を伝えた。第五福竜丸事件から今年で60年。来年は広島・長崎への原爆投下から70年だ。映画をきっかけに、改めて過去を振り返り、未来を考えたい。

### 筑波おし

「ゴジラ」が注目されている。7月にはハリウッド映画「GODZILLA」が公開されるほか、生誕60周年を記念した展覧会が開かれるなど、まさにブームと言っている現象だ。初登場した1954年の映画では、水爆実験で安住の地を追われ東京に襲来。そこでは放射能を帯びた熱線を吐きながら都市を破壊し、人間社会への怒りをぶつけた。「GODZILLA」でも水爆が登場する。ギャレス・エドワーズ監督は「54年のゴジラとつながるようにしたかった」と語っているが、劇中で水爆実験や放射能汚染が現代風に描かれる。ゴジラ映画で、繰り返す「水爆」が描かれる背景には、54年に起こった第五福竜丸事件がある。西太平洋ヒキシロ礁で実施された水爆実験に日本の漁船が巻き込まれ、船員23人全員が被ばくした事件だ。ゴジラの誕生には、当時の反水爆運動が反映されている。社会学類・好井裕明は著作の中で「ゴジラには反水爆イメージが息づいている」と指摘する。54年の映画ラストシーン、ゴジラは新型兵器で殺されてしまう。映画は環境汚染を繰り返す人間の身勝手さを強烈に批判すると同時に、原水爆の恐怖を伝えた。第五福竜丸事件から今年で60年。来年は広島・長崎への原爆投下から70年だ。映画をきっかけに、改めて過去を振り返り、未来を考えたい。

# 山下吏良助教(医学医療系) 「心のケア」に異色の経歴生かす

## 筑波大では被災地支援も

テレビ大阪報道記者、NHKキャスター、フリーアナウンサー、海上自衛隊員を経て筑波大学の教員となった山下吏良助教(医学医療系)は、その異色の経歴を基に、「自衛隊員や警察官など」災害時に救援活動を行う人の心のケアなどの支援を行っている。山下助教のこれまでの経歴と、現在の活動を追った。

(新田明夏)社会学類2年、写真も

### ■異色の経歴

出身は京都市。同志社大学で心理学を専攻、1995年にテレビ大阪に入社し、報道記者となった。入社後は、同年1月に発生した阪神・淡路大震災



異色の経歴を持つ山下助教

が被災者への取材などを経験。だが、アナウンサーへのあこがれを捨て切れず、99年にNHK鳥取放送局のニュースキャスターに転職した。その後関西を中心に、多くの番組に出演した。

だがそれまでの取材の中で、災害で家や家族を亡くした被災者の声を聞き、精神的に負担を抱える人への心のケアが必要だと痛感した。このことから臨床心理士の資格取得を目指すようになった。

臨床心理士として仕事をしながら、海上自衛隊が募集している臨床心理士の求人を見つけた。1年間で100人以上の隊員がさまざまなストレスを苦に自殺していることを知り、「自衛隊員には精神的なケアが必要だ」と痛感。過酷な環境下で働く隊員の力になりたいと考え、07年に海上自衛隊に入隊した。

海上自衛隊では隊員の心のケアに尽力した。例えば、護衛艦の衝突事故やヘリコプター墜落事故などが起ると、隊員が精神的な負担を抱える場合がある。海上自衛隊ではそのような隊員のカウンセリングなどを行うい、ストレスを減らす方法を考える手助けをした。

また隊員に対して、心の健康に対する講習を実施した。講習では、海上自衛隊で自殺した隊員の実例を交えながら、自分や身近な隊員の心の不調に気づいた時の対処方法などを伝えた。

東日本大震災の発生後、行方不明者の捜索や遺体収容などの任務を終え、基地に戻ってきた隊員の心のケアを行っている。

■筑波大へ  
自衛官時代の上直で、災害精神支援学が専門の高橋祥友教授(医学医療系)に誘われ、13年に筑波大の助教となった。学生向けに、芸術を通して東日本大震災の復興支援を行う「筑波大学創造的復興プロジェクト」で、災害時の精神的なケアに関する講義を行って

## 研究 探求

2003年に京都ノートルダム女子大学大学院に入学し、05年に臨床心理士の資格を取得した。

■自衛隊へ  
臨床心理士として仕事をしながら、海上自衛隊が募集している臨床心理士の求人を見つけた。1年間で100人以上の隊員がさまざまなストレスを苦に自殺していることを知り、「自衛隊員には精神的なケアが必要だ」と痛感。過酷な環境下で働く隊員の力になりたいと考え、07年に海上自衛隊に入隊した。

海上自衛隊では隊員の心のケアに尽力した。例えば、護衛艦の衝突事故やヘリコプター墜落事故などが起ると、隊員が精神的な負担を抱える場合がある。海上自衛隊ではそのような隊員のカウンセリングなどを行うい、ストレスを減らす方法を考える手助けをした。

また隊員に対して、心の健康に対する講習を実施した。講習では、海上自衛隊で自殺した隊員の実例を交えながら、自分や身近な隊員の心の不調に気づいた時の対処方法などを伝えた。

東日本大震災の発生後、行方不明者の捜索や遺体収容などの任務を終え、基地に戻ってきた隊員の心のケアを行っている。

■学生への声  
目まぐるしく変わる職場環境を経験した山下助教。そんな中で心掛けていることは「周りの人への気遣いを忘れないこと、自分の夢をあきらめないことだ。一人への気遣いを忘れず一生懸命頑張っていれば、助けてくれる人は必ずいる。新しい環境でも、多少の失敗は恐れず、夢に向かって自分のやりたいことに挑戦してほしい」とエールを送った。

## メガネ型装置「エージェンシーグラス」 レンズ部分に目の形を映す 感情表現の補助に期待

外から見るとメガネのレンズ部分に人の目の形が映し出される装置「エージェンシーグラス」を大澤博隆助教(シス情系)が開発した。表情をうまく作ることができない病気の患者や、盲目の人の感情表現を補助するなどで、さまざまな用途が期待されている。

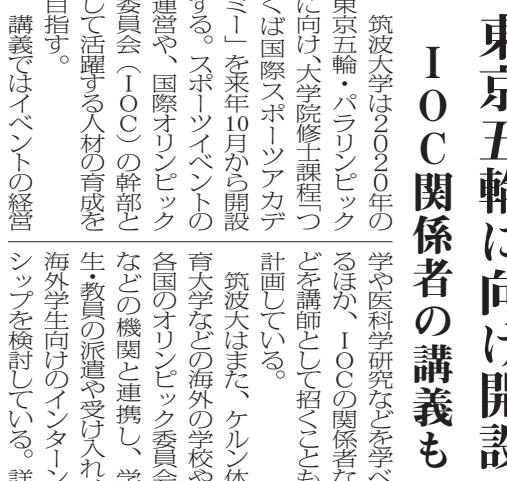
同グラスは普通の眼鏡と大きさをほぼ同じ。外部に向けた映像の目はまばたきをしたり、頭の向き

に合わせて瞳も動くなど、本物と同じような動きを再現する。人の顔を認識するカメラが付属しているため、相手の顔を見つめたり、相手がしている方向に視線を向けることもできる。

同助教によるとこの眼鏡をかけることで、視線が合わず相手に嫌な印象を与えてしまいがちな盲目の人を助けることが期待される。また表情をコントロールすることが難しい患者のコミュニケーションを円滑化することも可能という。

一方、同グラスは常に笑顔での接客を求められるキャビンアテンダントや、患者の苦しみに寄り添う看護師などが使った場合、自分の感情とは別の表情を見せなければならないストレスを軽減する効果も期待される。

大澤助教は「同グラスは、目の表情を自由に変えることができるため、使い



「エージェンシーグラス」をかける大澤助教

方はアイデア次第。今後はより薄く、使いやすい形にして違和感なくかけられるようにしたい」と今後の目標を語った。

(油布知夏、写真も)

## シンポジウム「西アジア文明学の創出1」 常木教授が基調講演 古代西アジアの重要性語る



西アジア文明について語る常木教授

国際シンポジウム「西アジア文明学の創出1」が6月28-29日に池袋サンシャインシティ文化会館(東京都豊島区)で

開催された。同シンポジウムは、常木晃教授(人社会学)が領域代表を務めるプロジェクト「現代文明の基層としての古代西アジア文明学がめざすもの」という基調講演を行った。同教

授はワインやビール、コーヒーといった食文化を例に挙げて、古代西アジア文明が現代文明の基礎となっていることを詳しく説明。古代西アジアを研究することは現代のイランやイラクなどへの偏見を取り除くために重要だ」と語った。

全講演の終了後、「現代文明の基層としての古代西アジア文明」というテーマでパネルディスカッションが行われた。オリエンタル古学を専門とするトロント大学のティモシー・ハリソン教授をコメントーターに招き、同シンポジウムの講演者が登壇。西アジアの豊かな地質・自然環境が、文明の発展につながったことなどについて議論した。

(森脇慎、写真も)



開発した木藤さん(左)と吉田さん

「デジタルユースアワード」アプリ部門  
木藤さんと吉田さんがグランプリ  
スポーツのプレーを簡単に分析

学生が開発したタブレット・スマホアプリの完成度アワード」の決勝大会が4月12日にKDDIホールで行われ、木藤紘介さん(情報創成4年)と吉田拓真さん(同4年)がアプリ部門でグランプリを受賞した。2人が開発したのは、スポーツのプレー分析を簡単にすることができるアプリ「Sport」。アプリはコンテスト後も改良を進めており、今年10月ごろには無料配信を開始する予定だ。

「Sport」はタブレット端末のカメラを用いてプレー中の動画を録画することができ、録画中に気に入った部分にチェックを入れておけば、後で何度も再生することができる。また、映像に絵や文字を書き込む機能も搭載されている。この機能を使うことで、例えば動画の中で選手が走るべきだった方向を矢印の絵などで的確に伝えることができるなど、スポーツ選手・監督が手軽に試合中の動きを分析できる。

従来、スポーツ分析用のアプリは、十数万円以上したが、「Sport」は無料配信を予定しているため、多くのアマチュア選手やその指導者がアプリを利用してきることが期待される。

木藤さんは「使用方法が簡単で、使いやすいアプリを目指し開発に取り組んでいる。スポーツに携わる全ての人に使ってほしい」と話した。

(森脇慎、写真も)

「つくば国際スポーツアカデミー」  
東京五輪に向け開設  
IOC関係者の講義も

筑波大学は2020年の東京五輪・パラリンピックに向け、大学院修士課程つくば国際スポーツアカデミーを来年10月から開設する。スポーツイベントの運営や、国際オリンピック委員会(IOC)の幹部として活躍する人材の育成を目的とする。

講義ではイベントの経営

学や医学科学研究などを学ぶべく、IOCの関係者などを講師として招くことも計画している。

筑波大はまた、ケルン体育大学などの海外の学校や各国のオリンピック委員会などの機関と連携し、学生教員の派遣や受け入れ、海外学生向けのインターンシップを検討している。詳細は7月26日に東京国際フォーラム(東京都千代田区)で行われるシンポジウムで発表される。

(森脇慎)

# 筑波大学吹奏楽団第71回定期演奏会 壮大な世界観を音で演出

デザイン=姉崎信(心理学類2年)



上「トロン」を指揮する佐藤(右)、下「サクソ」のソロを披露する黒崎

## ソロパートでも観客を魅了

筑波大学吹奏楽団の第71回定期演奏会が、6月14日にノバホール(つくば市吾妻)で開かれ、県内外から600人以上の観客が訪れた。

クラシックが中心の第一部は、A・リード作曲、序曲「春の狼犬」やJ・スバーノラ作曲「エスカパイド」など、軽快なスタックが軸の選曲。特にエスカパイドは現代音楽クラシックファンクの3要素が複雑に絡み合う、一風変わった幻想曲。指揮、松雪俊(工学3年)は「指揮者泣かせの曲だ」と語ったが、目まぐるしく移り変わる拍子や不安定に弾む裏拍のスタックを引き出し、見事にバンドを牽引した。(原啓一郎)社会学類4年、写真も。12面に関連写真



## 絶対音感

第一部の目玉は長生淳作(社会学類4年)の「トロン」。波のうねりや静かな海原をイメージした20分にもわたる楽曲だ。ホルンとトロンボーンがどどんと進んでいくのは荒れ狂う海を、トランペットをオフステージに置いた第2楽章は波一つ無い大海原を描く。そして第3楽章では8分の12拍子とい

う、マーチなどによく見られる拍子で、新たな船出を表現している。

第3楽章はスネアドラムを背景に、クラリネットとオーボエの低い音から主題が始まる。8分音符の主旋律が他の楽器を巻き込みながらオクターブを上げ、トランペットが高い音のファンファーレを奏でる。まるでオーケストラという船が、大海原へとこぎ出さかのようにだ。

「うねりにうねる海を船がどどんと進んでいくんだ。指揮、佐藤拓人(地球3年)が練習中に団員へ何度もかけた言葉だ。「僕たちは最後まで挑戦しなればならない。最後の一小節まで」。言葉通り、オーケストラは次々と主旋律をかけ合い、盛り上がる。指揮台に立つ佐藤のほおに汗に混じって涙が伝っていた。

## 第3回春季公演開催 巧みな演技を披露する

ジャグリングサークルSheep が5月23日に大会館で行ったジャグリングサークルSheepの第3回春季公演。ジャグリングのピンを使った演技をするメンバー



に似た「クラブ」を使った演技のほか、バルーンアートなどが披露され、会場に集まった約70人の観客を沸かせた。

クラブを使った演技では、数人でテンポよく15本のクラブをパスし合い観客を魅了した。さらにクラブをパスしている2人組の間に1人が入り、片側から投げられたクラブをつかみ反対側に手渡しする大技も見せた。

またバルーンアートの演技では、細長い風船を膨らませて数カ所ねじっただけで、アードルの形をした作品を作り上げて観客を驚かせた。演技の最後は同様に「ミッキーマウス」を作り、子どもたちから大きな拍手が送られた。

目ごとに世界観があり、とても楽しかったと語った。Sheep代表の菅原一景さん(社会学3年)は「大勢の観客の前でパフォーマンスができて気持ちよかった」と話した。(山野辺拓実、写真も)

## 第13回フォルクローレコンサート

筑波大学フォルクローレサークルが主催する第13回フォルクローレコンサートが6月7日、アルスホール(つくば市吾妻)で開かれた。フォルクローレは南米の民族音楽で、今回のコンサートにはフォルクローレサークル南だけでなく、筑波大学フォルクローレ愛好会や両サークルのOB・OGらが結成したバンドなど、グループが演奏した。最初に「コンドルは飛んでいく」が演奏され、来場者も大いに盛り上がった。

コンサートの運営を担当した山崎一彦さん(工学3年)は「年々フォルクローレの知名度が上がっていると感じたコンサートだった」と語った。(12面に関連写真)

## 日本画専攻の学生らが制作 桐の板に植物を描く

### 瀧仙寺本堂天井画展

芸術専門学群日本画研究室が主催する「瀧仙寺本堂天井画展」が6月24-30日に、総合交流会館多目的ホールで開催された。筑波大学の学生や修了生約50人が72点を出品し、一日で約80人が会場を訪れた。同展は、長野県小県郡

青木村の瀧仙寺の本堂改修工事に伴い、太田圭教授(芸術系)が同寺の住職から依頼を受け、日本画専攻の学生と教員らが天井画を制作。縦約58cm、横約56cmの桐の板を使用し、ホオノキやヤマザクラなどの植物をモチーフに1人が1、2点



展示に見入る来場者

の絵を描いた。展示作品と日本画教員による26点の作品、計98点を瀧仙寺に寄進する。絵は8月中旬に瀧仙寺本堂に設置され、400年以上、寺に保存される。絵を描いた大学院生は「自分の絵を多くの人に観てもらえるのはうれしい」と話した。太田教授は「多くの人が関わって制作する喜びを感じてほしい」と振り返った。

来場者は「知っている花が多くて興味がある。この日本画が寺の天井画になるのは神秘的だ」と話した。(廣岡里穂、写真も)

## 訂正とおわび

314号5面の「交差する表現 構成専攻の現在」の記事で、國安孝昌教授(芸術系)の作品名を「森の竜神」と記載しましたが、正しくは「筑波嶺の竜神」でした。おわびして訂正します。



齋藤環

## 原 点 GEN-TEN

私の専門は社会精神保健学である。昨年4月に本学に赴任するまでは精神科勤務医として、およそ四半世紀あまり、いわゆる「ひきこもり」問題の支援と啓蒙活動に関わってきた。

ひきこもりの存在には、現在の精神医療におけるさまざまな問題が集約されている。精神疾患の軽微化と社会問題化、「医療」と「福祉」「治療」

## 「別の人生」への強い関心 「ひきこもり」問題を支援

取り扱っている。いずれも従来の精神医療においては主流から外れた周縁的なテーマとみなされてきた。しかしいまや、これらの専門領域に対する社会的なニーズは、かつてないほど高まっている。

この自覚と関連して、私は常に、自身が「境界人」であり「周縁人」であるという意識があった。

こもりの資質があったのだ。私がひきこもり問題を専門としている理由の一つは、間違いない、自分にとって「ありえなかった」別の人生への強い関心がある。

この自覚と関連して、私は常に、自身が「境界人」であり「周縁人」であるという意識があった。

と「支援」の区別のあいまい化、「コミュニティ」の前景化、「個人の不適応」と「社会的排除」を両立させる複眼的視点の要請、など。

私が所属する研究室では、このほかにも「依存症」「児童虐待」「DV」「自傷・自殺」などの問題を「つまり、私自身にもひきこもり」の資質があったのだ。私がひきこもり問題を専門としている理由の一つは、間違いない、自分にとって「ありえなかった」別の人生への強い関心がある。

この自覚と関連して、私は常に、自身が「境界人」であり「周縁人」であるという意識があった。

癖がある。本業としての診療と研究の傍ら、講演を書き、現代思想やアートといった専門外の領域の論文を手がけ、ロボットの工学やメディア論の専門家らと対話を重ねてきた。はた目には無節操に映るであろうこうした活動の一切もまた、私の

今「を形作ってきたことは間違いない。そうした活動の集大成として、今私は「オープンダイアログ」の研究に取り組んでいる。フィランドで統合失調症治療に高い成績を上げたコミュニティケアの技法だ。西ラップランドという僻地の技法というだけでわくわくしてしまうのだから、やはり私は生涯「境界人」であり「周縁人」であるほかはないのだろう。

さいごう・たまき  
医学医療系 教授  
筑波大学大学院修了、2013年から現職。著書に「社会的引きこもり」(終らない思春期)(PHP新書)「ヤンキー化する日本」(KADOKAWA)ほか多数。



# 第40回宿舎祭 熱気にあふれた2日間



## 今年の火文字は「結」

30日午後4時から前夜祭が行われ、野外ライブや縁日が、祭の始まりをにぎやかに彩った。

午後9時からは、平砂共用棟前で前夜祭のメインイベント「火文字」が行われた。今年初の試みとして、曲に合わせてたいまつを振るなど火を使ったパフォーマンスが披露され、最後に今年の漢字「結」の火文字を写真、添島香苗撮影が浮かび上がると、会場は最高潮に達した。

## やどカラ

炎天下の中で熱唱 午後0時30分からメインステージで歌のうまさを競う「やどカラ2014」が行われた。予選を勝ち抜いた5人と昨年の優勝者が出場し、1000人を超える観客の前でJ-POPをはじめ、映画の挿入歌などを披露。会場は声援や手拍子で大いに盛り上がった。

接戦を制して優勝したのは、一昨年の優勝者・新巻功平さん(地球3年)。新巻さんは、甘い歌声でコブクロの「赤い糸」を歌い、上



コブクロの「赤い糸」を歌う新巻さん=加藤陽子撮影

第40回宿舎祭(やどかり祭)が5月30-31日に平砂学生宿舎周辺で行われた。当日は真夏日で、会場も熱気にあふれた。大盛況となった本祭の各イベントを本紙記者が取材した。(森レイ、油布知夏、井口彩、大西美雨、小野恵司、関根岳、新田萌夏、林健太郎、森脇慎、山野辺拓実、社会学類、加藤陽子、国際総合学類、田中開、教育学類、添島香苗、生物学類、齋藤優斗、社会学類、佐々木優、知識情報・図書館学類、岩根美樹、芸術専門学類)

午後4時50分から、メインステージで「漢祭り2014」が行われた。「漢祭り」は、出場者が3つの「お題」ごとにパフォーマンスを行い、その合計から学内で最も面白い「漢」を決める企画。3チーム9人の出場者は、司会者が出すテーマにどれだけ面白く答えられるかを競う「大喜利」や、一発芸を披露する「漢のネタ合戦」などで自分の面白さをアピールした。

最終企画「ガチンコ相撲」の結果、優勝は昨年も出場

## 福男

全力で250メートル疾走 午後5時50分から、やどかり祭40周年記念企画「福男」が目指せキラキラキャンパスライフが行われた。兵庫県の西宮神社で毎年行われる新年の恒例行事「福男選び」をモチーフにした企画。「福男選び」では参加者が本殿への一番乗りを

競うが、この日集まった数十人の参加者はパフォーマンス広場から平砂共用棟前までの約250メートルの道のりを全力で駆け抜けた。

最初にゴールして二番



1番でゴールする渡辺さんは井口彩撮影

## 面白さを競う

午後4時50分から、メインステージで「漢祭り2014」が行われた。「漢祭り」は、出場者が3つの「お題」ごとにパフォーマンスを行い、その合計から学内で最も面白い「漢」を決める企画。3チーム9人の出場者は、司会者が出すテーマにどれだけ面白く答えられるかを競う「大喜利」や、一発芸を披露する「漢のネタ合戦」などで自分の面白さをアピールした。

最終企画「ガチンコ相撲」の結果、優勝は昨年も出場

## 御輿

午後4時からパフォーマンス会場、御輿と劇やダンスなどのパフォーマンスが披露され、学群・学類などから9団体が参加した。各団体は、各学群・学類の専門分野を分かりやすく紹介したものやアニメのキャラクターをモチーフにしたものなど個性的な御輿を制作した。

参加者は御輿を担いで平砂共用棟前を出発。パフォーマンス会場に到着すると、会場は大いに盛り上がった。



会場を沸かせる出場者たち=新田萌夏撮影

## 浴衣美人が夜を彩る

午後7時過ぎ、宿舎祭のフィナーレを飾る「ゆかたコンテスト」がメインステージで開催された。今年から、学群だけでなく、学類からの参加もできるようになり、9団体が出場。各団体から選ばれた浴衣の似合う学生「ゆかたコンテスト」で、その魅力を引き立たせるパフォーマンスが演技を披露した。

グランプリは国際総合学類の寺島紗也子さん(国総1年)。準



上||息の合ったダンスを披露する国際総合学類、右||ソーラン節を踊る田中さん 左下||個性派賞を獲得した松本さんら医学群のダンス||山野辺拓実ら撮影

## ゆかたコンテスト

午後7時過ぎ、宿舎祭のフィナーレを飾る「ゆかたコンテスト」がメインステージで開催された。今年から、学群だけでなく、学類からの参加もできるようになり、9団体が出場。各団体から選ばれた浴衣の似合う学生「ゆかたコンテスト」で、その魅力を引き立たせるパフォーマンスが演技を披露した。

グランプリは、教育学類代表で男性の田中開さん(教育1年)、個性派賞は医学群の松本花奈さん(医学1年)が選ばれた。グランプリの国際総合

## 个性化的な神輿を披露

学類は異国情緒あふれる衣装で、さまざまな国のダンスを踊った。蛇の目傘を使って華やかな演技を見せた寺島さんは「楽しんで演技ができた。努力の結果だと思う」と語った。

準グランプリの教育学類は、女装した田中さんが華麗な日本風の舞を披露。その後、素早く衣装を替え、一転して迫力のソーラン節を力強く踊った。田中さんは「教育学類のチームワークが生きた演技になった」と話した。

また、御輿を通して若者に日本の伝統文化に興味を持ってもらうと、平塚万里奈さん(国総1年)が企画した「有志!神輿大好き人」が参加し、留学生を含めた約30人が練り歩いた。

「惜しくも優勝を逃した。同チームのメンバーに決定し、副賞とゆりだったので、優勝できなかったコンテスト出演者と記念撮影する権利」が与えら

「漢祭り」は、出場者が3つの「お題」ごとにパフォーマンスを行い、その合計から学内で最も面白い「漢」を決める企画。3チーム9人の出場者は、司会者が出すテーマにどれだけ面白く答えられるかを競う「大喜利」や、一発芸を披露する「漢のネタ合戦」などで自分の面白さをアピールした。

最終企画「ガチンコ相撲」の結果、優勝は昨年も出場

また、御輿を通して若者に日本の伝統文化に興味を持ってもらうと、平塚万里奈さん(国総1年)が企画した「有志!神輿大好き人」が参加し、留学生を含めた約30人が練り歩いた。

が終わると宿舎祭のWebサイトで投票が行われ、骸骨をかたどった完成度の高い御輿を制作した芸術専門学群が優勝した。準優勝はスフィックスとピラミッドの御輿を作った国際総合学類、御輿賞は和食をテーマにお節料理をかたどった御輿で観客を魅了した生物資源学類だった。パフォーマンス賞は、劇でレポート提出直前の鬼気迫る状況をコミカルに表現した情報学群だった。



優勝した芸術専門学群の御輿=関根岳撮影





# 第26回全国大学弓道選抜大会

## 今林 4射皆中決める

### 決勝トーナメント進出ならず



冷静的に狙う今林(右)と斎藤

【明治神宮(東京都渋谷区)で新田明夏II社会学類2年、写真も】団体戦大学日本一を決める第26回全国大学弓道選抜大会が6月28-29日に行われ、女子の部で菅谷(体専2年)、斎藤詩乃(同1年)、今林史佳(同2年)のチームが出場した。今林は4射全てを的中させる「皆中」を決めたが、3人で計12射7中で惜しくも予選敗退となった。

#### 弓道

予選トーナメントでは中央大、西南学院大と競射。水色の上着に身を包んだ筑波大は、冷静さを欠くことなく集中し

#### 記者の目

大会を見たのは弓道の格式の高さと礼儀を重んじる文化だった。伝統のつとめ、表情一つ変えず淡々と矢を放つ選手たち。筑波大は惜しくも予選を突破しなかったが、今後その冷静さを生かした演技に注目したい。

大会は開幕の儀式である「矢渡し」で幕を開けた。道場の責任者らが実際に弓を引き、的や道場に仕掛けなどがなことを示すもので、勝負の公平さを証明するといわれている。そこでは矢を射るまでの順序と作法が厳格に決められており、矢を必ず的中させなければならない。矢渡しの間は誰もが息をのみ、儀式の様子を見守っていた。

### 伝統的武道の神髄感じた

「文化」を至る所に感じた。特に目を引いたのは今林史佳(体専2年)の演技。冷静な表情を崩さない今林の演技は、伝統のつとめものだった。一つひとつの動作は丁寧そのもので、身体の末端にまで神経を行き渡らせているようだった。今林は皆中させたが、「ほんの少しの精神面の揺らぎで結果が変わる」と精神力の重みを語った。

### 第93回関東学生陸上競技対校選手権大会

#### 女子22年連続の総合優勝

#### 男子順位落とし総合5位

#### 陸上

第93回関東学生陸上競技対校選手権大会(関東インカレ)が5月16-25日に熊谷スポーツ文化公園陸上競技場(埼玉県熊谷市)などで開催された。女子は22年連続総合優勝を果たし、男子は惜しくも総合第5位だった。

女子は、勝山眸美(体専2年)がハンマー投げで60.56mの関東学生新記録を打ち立て、中村真悠子(体育2年)も3000m障害で2年連続で10分6秒52の大会新記録を出し優勝した。ほかにも知念莉子(体専3年)が田盤投げで、松原恵(同2年)が七種競技でそれぞれ優勝するなど各選手が好成績を収め、22年連続24回優勝の日本大戦では神谷が黒本正弘(日本大4年)に勝利したが、永瀬が安達裕助(日本大2年)と引き分け、ほか2人も引き分けた。黒岩も指導を4回受け敗北。残り2人も惜敗して1-3で敗退した。

### 全日本学生柔道優勝大会

#### 男子が3位入賞 優秀選手に神谷

#### 柔道

団体戦で争う全日本学生柔道優勝大会が6月28-29日に日本武道館(東京都千代田区)で行われ、筑波大は男子で3位入賞。女子は2回戦で敗退した。また優秀選手として神谷快(体育2年)が選出された。7人一組で行われた男子は、8月の世界選手権(ロシア・チェレピンスク)代表の永瀬貴規(同3年)や黒岩貴信(同3年)らの活躍で4回戦まで順調に勝ち進んだ。準決勝の日本大戦では神谷が黒本正弘(日本大4年)に勝利したが、永瀬が安達裕助(日本大2年)と引き分け、ほか2人も引き分けた。黒岩も指導を4回受け敗北。残り2人も惜敗して1-3で敗退した。

### 女子が嘉悦大破り3位 全日本インカレ出場権獲得

#### バレー



強烈なアタックを決める筑波大

【墨田区総合体育館(東京都墨田区)で林健太郎II社会学類2年、写真も】バレーボール全日本インカレが行われ、女子バレー部が3-0で勝利。準決勝で日本体育大に1-3で敗れたが、3位決定戦では嘉悦大に3-0で快勝した。

位に入賞。12月の全日本インカレへの出場権を獲得した。女子は2回戦以降、大妻女子大に3-0、金城大に3-0、東北福祉大に3-0で勝利。準決勝で日本体育大に1-3で敗れたが、3位決定戦では嘉悦大に3-0で快勝した。

### 前半戦終え最下位 初の2部降格も

#### サッカー

第88回関東大学サッカーリーグ戦 4月に行われている第88回関東大学サッカーリーグ戦が前半戦を終えた。筑波大は1勝8敗2引き分けの勝ち点5で最下位に沈み、創部以来初となる2部降格の危機に瀕している。

#### サッカー

試合後、守備の中心であったと振り返った。中西康己監督(体育系・准教授)は「全日本インカレで優勝できるような練習を積み重ねていきたい」と語り、後半は開始直後から筑波大のペースとなる。後半21分には中野嘉大(同4年)がドリブルで持ち込んでミドルシュートを放つも、ポストに当たり決められなかった。その後も、中野嘉大と交代した中野誠也(同1年)が交代直後からゴール前にパスを送りチャンスを作るなど、積極的に攻め込んだ。試合終了間際には流石経済大にゴール近くでフリーキックを与えたが、GK岩脇力哉(同3年)が防ぎ、今季初勝利を手にした。

### 第3回関東大学春季大会 3勝2敗で3位 東海大に敗れる

#### ラグビー

A・B・C3グループに分かれグループ内の総当た

り順位を競う第3回関東大学春季大会が4月20日から6月29日にかけて行われ、筑波大は3勝2敗でBグループ3位に終わった。ニッパツ三ツ沢球技場(横浜市神奈川区)で6月21日に行われた東海大との最終戦は、前半4分と10分に立て続けにトライを許す厳しい立ち上がりとなった。25分に竹中祥(体専4年)がトライを決めるも、28分には再びトライを奪われる。39分に野口大輔(同2年)がトライを決め前半を14-26で折り返した。後半、逆転を狙う筑波大だったが東海大のタックルに対してボールをこぼすミスが目立った。トライを決めることができず、逆に4分、20分、38分とトライを許し14-47で敗れた。トライを決めた竹中は「今大会の反省点を生かし、全員で成長したい」と語った。(富田慎二)

### アジア杯優勝で 学長を表彰訪問

#### サッカー

アジア杯初優勝を果たした。決勝ではオーストラリアを1-0で破り、アジア杯初優勝を果たした。

なでしこジャパン 猶本は現在、なでしこリーグの「浦和レッズレディース」に所属。高速バレーを14-26で折り返した。後半、逆転を狙う筑波大だったが東海大のタックルに対してボールをこぼすミスが目立った。トライを決めることができず、逆に4分、20分、38分とトライを許し14-47で敗れた。トライを決めた竹中は「今大会の反省点を生かし、全員で成長したい」と語った。(富田慎二)







序盤から快走するサイクリング部(左)

### サイクリング部 変速クラスで優勝

## 総合でも2位に

家庭用自転車「ママチャリ」を1チーム2〜10人で交代しながら8時間走り続ける「ママチャリ8時間耐久レース大会」

1回袖ヶ浦ママチャリ8時間耐久レース大会が、6月1日、袖ヶ浦フォレストリースウェイ(千葉県袖ヶ浦市)で行われた。筑波大学からはサイクリング部が出場し、変速クラスで優勝。総合でも2位に入賞した。

同大会は約2・4キロのコースをチームで交代しながら無改造のママチャリで約8時間走り続け、その周回数などで順位が決まる。ギアを変えられる変速クラスと、ギアを変えられないシングルクラスが行われ、

計39チームが出場した。サイクリング部は序盤からトップスピードを維持し続け、106周(約258キロ)を完走。変速クラスで優勝を果たした。総合ではシングルクラスで優勝した。同大会は2010年まで宮城県で行われていたが、東日本大震災の影響で中断。今回は千葉県で再開された。今年10月には新潟県でも開催される予定だ。(山野拓実)

# 「つくさか地域食育支援プロジェクト」

## 小中学生に野菜の育て方を指導

デザイン=姉崎信(心理学類2年)



### 附属坂戸高が活動

「このトマト、私たちが育てている」と形が違ふよ。7月初旬の昼下がりに、筑波大学附属坂戸高校(埼玉県坂戸市)にある農業科の農場(約2・4ヘクタール)で、市内の小中学生を対象にさまざまな活動を行っている。そして同プロジェクトは3年前から「筑波大学社会貢献プロジェクト」にも採択された。企画は多岐にわたる。今

回は高校の農場で育つ野菜を見たり触ったりすることで疑問を解決する。農場の散策が始まり、子どもたちは一斉にガラス温室や畑の畝に駆け寄り、「葉っぱが全然虫に食われてないね」「どうやってトマトがこんなに真っ赤になるんだろう」。疑問を次々に口にすると、高校の先生を捕まえて、質問をぶつける。つるを巻き付ける支柱や鳥よけのネットが使われているのを見て、自分たちの畑にも取り入れようという話になった。

こうした活動が評価され、プロジェクトは筑波大から地域との連携を最も進めた団体に贈られる「つくさかエコシティ推進賞」(2012年)や「つくさか地域連携推進賞特別賞」(13年)を贈られている。「今後は小中学校の職員と連携を強化し、活動を多く行いたい。現在、給食食



オクラの様子を観察する小学生

材の提供が追いついていないので、青ナスやプロッコリーなど地域性のある品を中心に増産する」と黒岩健一先生(坂戸高校実習助手)は今後の抱負を語る。農場の散策後、質疑応答の時間。一人の男の子が元気に手を挙げた。「おいしい野菜はどしたら作れますか」。真剣な表情で尋ねるその子に、黒岩先生は笑顔で答える。「野菜は一時期でも間違っていた育て方をすると、元気に育たない。野菜の健康管理をしっかり行って。そのためには何よりも野菜の気持ちになることが大事だよ(油布知夏II 人文学類2年、写真も)」

### 「当時、今、これから—3・11から考える」

## 被災地の経営者が講演

### 住民の視点から現状語る

被災地を訪れ、被災地の様子を発表する団体「みにぶろ」一行が、6月5日、3A棟202教室で行われた。福島県南相馬市で復興支援事業を行う星巖さんと佐藤喜彦さんが震災当時の様子や自身の復興に向けた活動について講演し、会場には筑波大生を中心に約30人が訪れた。同市内で民宿を経営する星さんは「被災地は震災以前の生活を取り戻しつつあるが、支援物資への感謝の気持ちが薄れていたり、震災で失業した人の中にいまだに働こうとしない人がいるのが残念だ」と、地域住民の視点から被災地の現状を語った。また佐藤さんは「震災から3年たった、つらい体験も少しずつ話せるようになった」と語った。



講演者と対談する山下さん(左)

また講演会の後半では、「みにぶろ」代表の山下史雅さん(比文2年)が参加者のアンケートをもとにインクインフラを整え、当

比較文化学類が主催する「比文カフェ」が6月11日、1D棟201教室で行われた。精神科医の斎藤環教授(医学医療系)をゲストに迎えて、五十嵐沙千子准教授(人社会学)が聞き手となり、会場には学生など約90人が訪れた。斎藤教授は、「空気を読む」文化や、面と向かったコミュニケーションの不足など、現代社会特有の問題について、精神科医の立場から説明。対談の中では参加者に意見を求める場面も

### モスクワ市立教育大学

## 山崎雄貴

(ロシア)



ロシアで友人たちと(中央が山崎さん)

### モスクワで日本語教育

皆さんこんにちは。ロシアのモスクワに去年の9月から留学中の、日本語・日本文学類の山崎雄貴です。

モスクワ市立教育大学では、日本語学部や、大学と提携する学校などで日本語の先生としてロシア人の学生、生徒さんに日本語を教える機会があります。また、大学でロシア語の授業も受講し、とても充実した日々を送らせていただいています。

モスクワで日本語教育についてお話を伺っています。皆さんはロシアという国に、どんなイメージを持っているのでしょうか。ウオツカ? マトリョシカ? もしかしたらクレムリンとか、プーチンとか、ソ連とかいう単語を思い浮かべる方もいるかもしれません。日本とロシアは隣国ですが、それにも関わらず日本人の多くはロシアについてあまり知らないように思います。かくいう自分もそうでした。私が今留学しているモスクワは、おおよそ

1300万人の人口を擁するヨーロッパ最大の都市です。ロシア国内においても、政治、文化、経済、また交通網の中心でもある、文字通りの大都市です。つい20年少し前までは東側世界の中心であり、今でも町中に当時の名残ともいえるさまざまな巨大な豪華な建築物、レリーフ、銅像などを見ることが出来ます。特に1950年代ごろに作られた地下鉄の駅構内などは、その装飾の見事さに、いまだに圧倒されます。

また、意外かもしれませんが、モスクワでは日本食が大人気で、中心部には非常に多くの日本食店があり、最近では日本の製麺会社がモスクワに進出もしています。そんなモスクワで、私は日本語を教えています。もちろんロシア語も使いますが、基本的には

日本語で日本語を教える「直接法」という方法で教えています。日本から7500キロ離れたこのモスクワで日本語を教えるにあたって、もちろん苦労も多くあります。多くの学生は、日本について興味を持ってはいますが、いかにせんロシア人向けの教科書は少なく、非常に間違いの多い辞書や教科書なども残念ながらまだまだ多いのが現状です。そんな環境での授業で戸惑うこともあり、自分の限界に挑戦するという意味で非常にいい経験させていたいただいていると感じています。

もし、この記事を読んでモスクワに、そしてロシアに興味を持った人は、ぜひ一度足を運んでみて下さい。

それでは、До свидания!(さようなら!)(日本語・日本文学類4年)

### 斎藤環教授を招く

#### 精神治療法の紹介も

比較文化学類が主催する「比文カフェ」が6月11日、1D棟201教室で行われた。精神科医の斎藤環教授(医学医療系)をゲストに迎えて、五十嵐沙千子准教授(人社会学)が聞き手となり、会場には学生など約90人が訪れた。斎藤教授は、「空気を読む」文化や、面と向かったコミュニケーションの不足など、現代社会特有の問題について、精神科医の立場から説明。対談の中では参加者に意見を求める場面も

あり、斎藤教授の「パソコンのない時代に戻りたいか」という質問に来場者の多くは「ツイッターなどのSNSでつながりを感じられる現代の方がいい」と答えた。

また斎藤教授は、精神治療で使われる「オープンダイアログ」という、心の病を持った患者と、医師が対等な会話をして治療を行うという、薬物に頼らない治療法を紹介。「対話の内容や結論よりも、対等な人間として向き合っていることが、人間の精神を豊かにする」と語った。(廣岡里穂、3面に斎藤教授の「原点」)



# Who's Who?

「みにぷろ-見に行こう、そして考えよう東北プロジェクト-」代表

## 山下史雅さん (比文2年)



芝生でほほ笑む山下さん

2011年3月に東日本大震災が発生して3年。福島第一原発事故による放射線の危険性などを報道で耳にし、「被災地は危険な場所だ」というイメージを抱いてしまっているのではない

か。そんな被災地へのイメージを変えるべく活動している団体が「みにぷろ-見に行こう、そして考えよう東北プロジェクト-」だ。「みにぷろ」はがれき撤去や建物の修繕を手伝うようなボランティア団体ではない。被災地で人々に復興の進み具合や生活の様子などを聞き、筑波大学での展示や発表会などを通じて被災地の現状を報告する団体だ。

## 「被災地」のイメージを変える 深まる故郷への愛着

うな 大学生ができることは、まず第一に被災地を「知る」ということではないか。そこで考えた自分にも何かできる気がして、「みにぷろ」を立ち上げた。

山下さんは2回の訪問を「現地の人には皆明るく、私たちのほうが元気をもらえた」と振り返る。今後は被災地を訪れる機会を増やす予定だ。

先日、東京都写真美術館で開催中の「世界報道写真展」を訪れる機会があった。記者の仕事ではありませぬ。記事内容を効果的に表現し、読者に強い印象を与える写真を撮ることも大事な仕事です。▼今号から、記者が撮影した写真には署名を入れていきます。記者に写真への責任感を持ってもらうのが狙いです。「世の中を動かす写真」が撮れるよう、精進を続けたいと思います。(編集長 平嶋健人 社会学類3年)

次号は

10月6日(月)

発行予定です

### 編集後記

## 第71回吹奏楽団定期演奏会



真剣な面持ちで音色を奏でる演奏者=原啓一郎撮影

3面へ

## 第13回フォルクローレコンサート



情熱的な演奏をする団員=森レイ撮影

3面へ

## 関東大学バスケットボール新人戦



決勝でシュートを決める馬場=井口彩撮影

9面へ

## リレー・フォー・ライフ



横断幕を掲げて行進する参加者=原啓一郎撮影

11面へ

学芸

学芸

スポーツ

学生生活